

## 令和6年度 島根県小中学校理科教育研究会役員表

会 長	新田 紀久	副 会 長	猪口 靖・足立 紀佳・村上 浩一	常任理事	猪口 靖・横田 輝昭・山下 積・遠藤 幸子・村上 浩一	監 査 員	小林 信・澤江 健
支 部	理 事 (支 部 長)		副 支 部 長		事 務 局 長		
	氏 名	勤 務 校	氏 名	勤 務 校	氏 名	勤 務 校	
松 江	新田 紀久	津田小学校	齋藤 由美子	大庭小学校	花井 浩	津田小学校	
安 来	猪口 靖	広瀬中学校	俵 裕 樹	飯梨小学校	小原 亜子	飯梨小学校	
仁 多	難波 真章	三沢小学校	藤江 教隆	馬木小学校	桑山 了子	三沢小学校	
雲 南	横田 輝昭	田井小学校	高橋 敦子	寺領小学校	加藤 泰寛	田井小学校	
出 雲	渡部 哲治	河南中学校	加藤 道夫	稗原小学校	竹本 謙二	河南中学校	
大 田	毛利 伸	静岡小学校	石田 雅裕	大森小学校	石田 雅裕	大森小学校	
飯 石	足立 紀佳	頓原中学校	岡城 孝直	頓原中学校	岡城 孝直	頓原中学校	
浜 田	小林 信	三階小学校	小田 貴司 堀田 寛弥	金城中学校 三階小学校	賀戸 幸久	三階小学校	
江 津	山下 積	桜江中学校	春木 二美	桜江中学校	山下 積	桜江中学校	
邑 智	石田 和範	川本中学校					
益 田	遠藤 幸子	中西中学校	坂野 智之	都茂小学校	渡邊 純一	中西中学校	
鹿 足	澤江 健	木部小学校	塚本 達治	柿木中学校	澤江 健	木部小学校	
隠 岐	村上 浩一	西ノ島小中学校	山根 大輝	西郷中学校	古木 秀典	西ノ島中学校	

【本部事務局】 松江市立大庭小学校 〒690-0033 松江市大庭町1047 TEL 0852-21-4239 FAX 0852-21-4311

事務局長	齋藤由美子	大 庭 小
事務局次長	寺本 佑二	宍道中大野原分校
	鶴鶴 健	佐 太 小
本部会計	遠藤 幸子	中 西 中
研究推進委員会 委員長	吉木 勇氣	附属義務教育学校
	副委員長	野崎 朝之
事務局	関野 淳也	長 久 小
委員	谷口 淳人	河 南 中
委員	八木 優	内 中 原 小
委員	宮下 健太	附属義務教育学校
委員	渡邊 潤	斐 川 西 中
委員	飯塚 真子	八 雲 小
委員	高梨 淳貴	古 江 小
委員	藤井 美帆	大 庭 小
会誌担当	井上 裕由	平 田 中
会誌担当	大國 寛和	高 浜 小

小学校学習評価委員会委員長	高梨 淳貴	古 江 小
委員	畑 祐介	母 衣 小
委員	垣谷 彩	古 志 原 小
委員	持田 洋之	生 馬 小
委員	土作 彰	乃 木 小
委員	門脇 志穂	持 田 小
委員	堤 大将	揖 屋 小
委員	栗山 和暉	来 待 小
中学校テスト等編集委員会委員長	寺本 佑二	宍道中大野原分校
委員	大西 浩平	松 江 二 中
委員	布村 甲斐	八 雲 中
委員	山口 純一	宍 道 中
委員	絹見 周三	湖 北 中
島根県科学作品展運営委員会委員長	岡 雄輝	浜 山 中
委員	錦織 清子	美 保 関 小
委員	糸川 晃行	松 江 一 中
委員	山下 浩司	大 庭 小
会報委員長	島 多喜子	秋 鹿 小

支 部	小 学 校 学 習 評 価 委 員		中 学 校 学 習 評 価 委 員	
	氏 名	勤 務 校	氏 名	勤 務 校
松 江	高 梨 淳 貴	古 江 小 学 校	寺 本 佑 二	宍道中学校大野原分校
安 来	勝 田 智 志	母 里 小 学 校	玉 木 奈 津 子	伯 太 中 学 校
仁 多	狩 野 元 基	高 尾 小 学 校	花 田 修 司	仁 多 中 学 校
雲 南	安 立 朋 弘	鍋 山 小 学 校	森 田 圭 介	三 刀 屋 中 学 校
出 雲	長 岡 志 保	大 津 小 学 校	谷 口 将 人	河 南 中 学 校
大 田	岩 谷 和 樹	志 学 小 学 校	知 野 見 勘 太	大 田 西 中 学 校
飯 石	永 井 結 太	赤 名 小 学 校	久 家 秀 幸	赤 来 中 学 校
浜 田	堀 田 寛 弥	三 階 小 学 校	堀 田 優 花	第 二 中 学 校
江 津	梅 谷 真 実	桜 江 小 学 校	橋 本 健 哉	江 津 中 学 校
邑 智	伊 藤 香 苗	大 和 小 学 校	大 谷 一 充	川 本 中 学 校
益 田	桑 原 咲 良	吉 田 小 学 校	小 梶 茉 奈 美	中 西 中 学 校
鹿 足	青 戸 祐 樹	七 日 市 小 学 校	川 崎 哲 也	吉 賀 中 学 校
隠 岐	金 山 大 地	西 ノ 島 小 学 校	堀 川 洋 平	海 士 中 学 校

島根県小中学校  
理科教育研究会

# 会 報

No.108

R6. 8. 1

## 理科を学ぶことの意義や有用性への危機感

島根県小中学校理科教育研究会  
会長 新田 紀久

一昨年度、全国の学力調査に久しぶりに理科が実施されました。その際に同時に実施された質問紙の設問の一部に以下のようなものがありました。

(図中の表記)

全国小＝全国小学校、県小＝島根県小学校

全国中＝全国中学校、県中＝島根県中学校

【教科が好きかを問う設問】肯定的回答率

	全国小	県小	全国中	県中
理科	79.8%	78.6%	66.4%	68.7%
国語	59.4%	59.2%	61.9%	61.5%
算数(数学)	62.7%	57.8%	58.1%	58.3%

【教科が大切であるかを問う設問】肯定的回答率

	全国小	県小	全国中	県中
理科	86.5%	86.8%	76.8%	79.1%
国語	93.4%	93.2%	93.2%	93.8%
算数(数学)	94.3%	93.7%	86.6%	88.5%

【将来役に立つかを問う設問】肯定的回答率

	全国小	県小	全国中	県中
理科	77.3%	77.4%	61.5%	63.0%
国語	91.7%	91.5%	89.7%	90.5%
算数(数学)	93.3%	92.1%	76.5%	79.3%

乱暴な言い方をすると、「国語や算数と比べると、理科は好きだけど、学ぶ意義は低く、役に立つと感じていない」ということです。この結果は、近年そういった傾向になっているというわけでもなく、かなり前からこの構図は変化していません。その間、様々な機会をとらえ、関係各機関で「理科を学ぶことの意義や有用性」を高めるための指導の在り方について議論がなされ、実践されてきました。もちろん、本研究会におきましても研究推進委員会が核となり、授業改善の取組を行ってきました。

では、なぜそういった意識調査の結果となるのでしょうか。国語や算数は、江戸時代から「読み、書き、そろばん(計算)」と言って初等教育の柱とされてきたことも影響していると思いますが、果たし

てそれだけなのでしょうか。我々指導する側にも課題があるのではないのでしょうか。科学技術立国として大きな進歩を遂げた我が国は、現在、「2位ではだめなんですか?」と問われたこともありましたが、2位にすらなれない現況があります。

一方で、理科の“考え方”を働かせて仮説を立てて思考することは、子どもたちが今後予測不可能な時代を生きていくために、必要な思考の手順と言っても過言ではないとも感じています。例えば、目の前の事象に対して、比較の考え方で整理してみる? 関連付けて考えてみる? 条件を制御しながら検討する? 多面的な要因を挙げながら考える? などは、どの問題解決過程をとるにしても、最適解を導くための大きな力と成り得ると考えるからです。

昨今、地学的な時間のスパンで言うならば、頻発と言っているほど起きている大きな地震や異常気象等があります。この要因の一つとしては、プレート境界部分の岩盤のずれや活断層の動きだったり、偏西風の蛇行が増幅されていることと推測されています。そのメカニズムは明確には解明されていませんが、人間の営みが影響していることは、もはや自明の理なのではないのでしょうか。人間が快適な暮らしを求め、そこにある多くのリスクを見ずに、ベネフィットを享受し続けた結果なのではないのでしょうか。

前述の調査の別な設問に以下のようなものがあります。

【自然の中で遊ぶことや自然観察をしますか】

全国小	県小	全国中	県中
65.1%	63.2%	55.0%	57.4%

島根県の子どもたちはもちろんですが、全国の子どもたちの理科離れ、自然離れが顕著になっています。今一度、理科に目を向けたり、自然に関心をもったりできる環境づくりに注力したいものです。そのための一助となるよう、今年度も各事業を展開してまいります。会員の皆様におかれましては、厳しい学校運営の状況下ではありますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 理事会報告

島根県小中学校理科教育研究会理事会は、5月2日（火）に島根県市町村振興センターを会場に開催されました。

### 1. 令和5年度県理研事業等報告

- (1) 事業報告
- (2) 本部会計・積立会計決算報告
- (3) 小学校学習評価委員会事業・会計決算報告
- (4) 中学校理科テスト等編集委員会事業・会計決算報告
- (5) 島根県科学作品展・日本学生科学賞島根県展事業・会計決算報告
- (6) 研究推進委員会事業報告
- (7) 会報事業報告
- (8) 「島根の自然は生きている」経過報告

### 2. 令和6年度県理研役員改選

### 3. 令和6年度県理研事業計画等審議

- (1) 事業計画案
- (2) 予算案
- (3) 島根県科学作品展・日本学生科学賞島根県展開催計画
- (4) 研究推進委員会事業計画
- (5) 小学校学習評価委員会事業計画
- (6) 中学校理科テスト等編集委員会事業計画
- (7) 会報事業計画
- (8) 「島根自然は生きている」計画
- (9) 各種大会発表割り当て
- (10) 諸理研大会・科学作品展の開催と割り当て
- (11) 役員報告についてのお願い
- (12) 島根県小中学校理科教育研究会会則
- (13) 旅費報告
- (14) その他

## 令和5年度 県理研事業報告

令和5年

5. 2 理事会  
(島根県市町村振興センター)
5. 23 県教研理事会・評議員会  
(サンラポーむらくも)
6. 科学作品展に関して依頼・挨拶  
(島根大学、読売新聞社)
7. 1 全小理理事会 (東京)
8. 1 会報第106号発行
8. 18 理科学習評価検討委員会小中合同研修会・テスト等編集 (島根県市町村振興センター) 臨時理事・役員会 (県立武道館)

10. 18 第76回島根県科学作品展  
～22 第67回日本学生科学賞島根県展  
(国立三瓶青少年交流の家)
  11. 9  
～10 第59回中国四国中学校理科研究大会高知大会 (高知みらい科学館ほか)
  11. 16  
～17 第56回全国小学校理科研究協議会研究大会神奈川大会 (横浜市立井土ヶ谷小学校ほか)
- 令和6年
1. 26 常任理事会  
(島根県市町村振興センター)
  1. 31 会報第107号発行
  3. 28 令和5年度県理研会計監査会

## 第68回日本学生科学賞島根県展 第77回島根県科学作品展開催について

**趣 旨** 児童、生徒の科学的な研究意欲を高め、創造力をのばすとともに教職員の創造的な指導力を向上することによって理科教育の振興を図る。

**主 催** 島根県小中学校理科教育研究会、島根県高等学校理科教育協議会、松江市教育研究会、隠岐郡教育研究会、読売新聞社

**後 援** 島根県教育委員会、松江市教育委員会、隠岐の島町教育委員会、西ノ島町教育委員会、海士町教育委員会、知夫村教育委員会、島根県産業教育振興会

**展示期間** 令和6年10月12日（土）10：00～16：00  
～10月13日（日）10：00～12：00

**会 場** 玉湯公民館（松江市玉湯町1796）

**審査対象** 小・中・義務教育学校・高等学校児童・生徒の科学的創作品、研究物

**審 査** 中央審査委員会を構成して、別に定める審査基準により10月11日（金）に行う。

**出品方法**

- (1) 島根県小中学校理科教育研究会の支部で選考のうえ出品すること。また、高等学校の作品については、当該学校から直接出品すること。
  - (2) 作品の送付は、搬入・搬出日時を指定し、作品ごとにまとめて支部から送付すること。  
返送は着払いで行うので、宅配用紙に記入のうえ、出品作品に同封すること。作品を梱包した時の写真を、必ず同封すること。
- ※それ以外の方法を希望する場合は、別途松江市立大庭小学校に文書又は e-mail (ooba-e@city.matsue.ed.jp) で連絡すること。

会場搬入指定日時：令和6年10月10日（木）

10時～12時

会場搬出指定日時：令和6年10月15日（火）

16時～18時

(受付の都合上、厳守すること)

送付先：〒699-0202 島根県松江市玉湯町1796

玉湯公民館 科学作品展係

電話：0852-62-9111 FAX：0852-62-9100

(3) 出品、返送についての費用は、島根県小中学校理科教育研究会本部では負担しない。

(4)① 応募作品整理の便宜上、出品票の区割線を小学生の部は黒色、中学生の部は青色、高校生の部は赤色とする。

② 出品票は、各作品の右下端に1枚ずつ必ず添付する。

③ 応募作品が2個以上で構成される場合は、「個数番号」欄にその個数とナンバーを記入する。(例「3の2」=3個のうち2番目の作品の意)

④ 令和5年度より、指導者名と出品物の説明は記載しないこととする。

(5) 模造紙は縦1091mm、横788mm程度の大きさのものを縦に使用し、「研究概要」を横書きで分かりやすく説明すること。

※高等学校についても、模造紙1枚とする。(会場の都合のため)

※模造紙にパソコン等で印字することは可とする。その場合は、20ポイント以上で行うこと。

※模造紙の資料とする写真やスケッチ等は効果的に使用すること。

(6) 模造紙に添付する論文として、A4判400字詰原稿用紙（横書き用）に研究したことを各学年の制限枚数に従ってまとめること。

※小学校低学年の使用する原稿用紙は、A4判でなくてもよい。

※論文は、学年を問わず手書きでもパソコン等でもよい。(1枚あたりの文字数は400字に収まるようにする)

※中学校・高校については、パソコン等が望ましい。※小学生は、表紙を除いて低学年12枚まで、中学年18枚まで、高学年24枚までとする。

※中学生は、表紙を除いて30枚までとする。※高校生は制限なしとする。

※規格外の作品は、審査対象外とするので注意すること。

※参考文献は、論文に明記すること。※具体的な商品名の記載はしないこと。(写真にも商品名やロゴが写らないようにする)

(7) 資料は別に添付すること。

※生物（動物・植物）を資料として県展へ送ること

は不可とする。

※大きさは、原則として80cm×45cm（長机の半分程度の大きさ）の面積内に展示できるもののみとする。

※上記範囲内に展示できない場合は、展示物を事務局で選択した上で展示する。

※過去に発表した模造紙そのものは提出しないこと。過去の模造紙を資料として提出する場合は、写真に撮るなどし、資料の一部として添付すること。

※展示会場の電源は使用できないので注意すること（発電機の持込も不可）。

(8) 出品規格が遵守されていること。

(9) 返送については、①着払いで返送、②会場搬出日時の16時～18時の間に直接引取る、のいずれかを明示して出品すること。

※①の場合は、返送用の宅配用紙を同封すること。

(10) 出品目録は、支部長が必要事項を入力した後、9月27日（金）までに、松江市立大庭小学校 (ooba-e@city.matsue.ed.jp) へe-mailにて送付すること。

※出品目録を作成する際は、研究題目は模造紙に記されたものを正確に記すこと。

児童（生徒）氏名は旧字体や略字体、外字等にも注意すること。

※支部長は最終確認をし、間違いがないことを確かめてから発送すること。

◎出品点数の割り当て

支部名	小	中	計	支部名	小	中	計
松江	10	7	17+10	江津	3	2	5+2
安来	4	3	7	邑智	3	1	4
出雲	14	8	22	浜田	6	4	10+3
雲南	4	2	6	益田	4	3	7
大田	4	3	7	鹿足	3	2	5
仁多	2	1	3	隠岐	3	1	4+5
飯石	2	1	3	合計	62	38	100+20

## 会誌（第20号）原稿募集

実践報告、研究論文等形式は問いません。すぐに印刷にかけられる原稿（A4版 偶数枚 PDF等電子データ可）を下記の送付先に送っていただきますようお願いいたします。

(送付先)

〒691-0001 出雲市平田町2950-1

出雲市立平田中学校

県理研会誌事務局 井上 裕由 宛

TEL 0853-63-3050 FAX 0853-63-3051

e-mail htc-school@izumo.ed.jp